

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館制度・経営論						
担当教員	中村 恵信						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館における政策と経営の考え方及びあり方の理解						
授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、行政制度及び具体的な行政サービスを遂行するための図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源としての人材・経費・資料等の活用計画について説明を行い、図書館の組織、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理・運営形態及び専門職員の在り方等について解説する。						
到達目標	図書館に関する社会科学的事項を学ぶとともに公共図書館等の図書館の経営の理念とその現状を学び、法と行政制度及び具体的な行政サービスに関する知識を習得し図書館の本質を具体的に見定め、利用者の立場を含めた総合的な視点を習得できるようにする。						
授業計画	第1回 図書館の経営・図書館の使命と目的 第2回 図書館の制度と組織・図書館の経営サイクル（計画と評価） 第3回 図書館サービスの計画・図書館のマーケティング 第4回 コミュニティ・ニーズの把握・公立図書館の整備計画 第5回 図書館サービスと法（著作権法、個人情報保護法、公貸権等） 第6回 情報資源と業務アーキテクチャの更新・図書館協力と相互運用性 第7回 図書館の建築計画 第8回 図書館のファシリティマネジメント 第9回 図書館の人的資源管理 第10回 図書館組織の運営・リーダーシップ（図書館長）と組織文化 第11回 図書館員の養成と育成 第12回 図書館の財務計画・図書館の設置信仰と補助金 第13回 図書館サービスの課金・新しい公共経営 第14回 公共図書館のブランド・図書館と社会的包摂・電子政府と図書館 第15回 21世紀の図書館及びまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んできてください。 授業後学習：授業中に説明した内容について図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（60%）、レポート（40%）						
教科書	『図書館経営論』（JLA図書館情報学：テキストシリーズ 11：2）永田治樹編著 日本図書館協会 ISBN978-4-8204-1102-4						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	生涯学習概論						
担当教員	戸来 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生涯学習についての概説						
授業の概要	<p>キーワード：生涯学習社会の理解</p> <p>生涯学習という概念は、1960年代の中頃から新しい教育理念として出てきた。今日では、生涯学習社会を構築するために、学校教育にとどまらず、社会教育の役割も重要になっている。生涯学習論では、教育の原理、および生涯学習の意義を把握し、人間のライフサイクルと共に変化する学びの必要性を理解するし、また、社会教育施設や、教育に関する自治体行財政や法律についても学ぶ。</p>						
到達目標	<p>生涯学習、および社会教育の意義を理解する。生涯学習の歴史的経緯を知る。人間の成長・発達の視点から教育の必要性を理解すると共に、有効な学習方法や学習のニーズを理解する。老人大学をはじめとする様々な社会教育施設を知る。</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 生涯学習の歴史的側面・理念・目標</p> <p>第2回 学校教育と生涯学習の関連性・生涯学習の現状</p> <p>第3回 生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携</p> <p>第4回 日本と外国の生涯学習のあり方の相違</p> <p>第5回 生涯学習の内容・方法・形態について</p> <p>第6回 成人期に学ぶことの意義と現状</p> <p>第7回 老年期の学ぶことの意義と現状。教育老年学の紹介</p> <p>第8回 生涯学習振興施策の立案と推進に関する事</p> <p>第9回 生涯学習に関する社会教育行政について・一般行政との関連について</p> <p>第10回 自治体の行財政制度と教育関連法規について</p> <p>第11回 様々な社会教育の内容・方法・形態</p> <p>第12回 社会教育施設及び生涯学習関連施設の紹介とその管理と運営</p> <p>第13回 学習者への支援と評価の在り方・学習成果の活用について</p> <p>第14回 社会教育指導者の育成とその役割について</p> <p>第15回 まとめ・生涯を通して学ぶことの意義の確認</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前 前もって配布した資料等を読んでくること。</p> <p>授業後 ノートを整理し授業内容を復讐すること。質問や疑問点があれば、次の授業で質問してください。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験の点数に小レポートや授業に取り組む姿勢などを2割を目安に加算します。						
教科書	特にしていません。						
参考書	<p>『生涯学習と自己実現』、堀薫夫、三輪健二著、放送大学教材</p> <p>『生涯学習論 - 現代社会と生涯学習』、岩永雅也著、放送大学大学院教材</p>						

科目区分	司書課程科目						
科目名	生涯学習概論						
担当教員	戸來 知子						
学期	後期 前半	曜日・時限	木曜5	配当学年	1~3	単位数	1.0
授業のテーマ	生涯学習社会の理解						
授業の概要	キーワード：生涯学習の概略理解 1960年代中頃から新しい教育理念として提唱されてきた生涯学習について理解を深める。生涯学習社会の構築を目標に、その歴史、生涯を通して学ぶことの必要性を理解する。						
到達目標	生涯学習および社会教育の本質と意義を理解する。人間の成長・発達に従って必要な学びが変化していくことを理解する。成人期、老年期にも学ぶことは必要であることを理解し、どのような教育施設があるのかを知る。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 生涯学習の歴史・理念・目標の理解 第2回 生涯学習と家庭教育・社会教育との関連性について 第3回 生涯学習関連施策の動向について 第4回 社会教育の意義について 第5回 社会教育の内容・方法・形態について・諸外国との比較 第6回 社会教育指導者の育成とその役割について 第7回 社会教育施設の概要 第8回 生涯学習の情報の提供と学習相談の意義および評価について						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：配布したプリントを読んでおくこと 授業後：ノートを整理する。疑問点、質問事項を整理する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験の点数に授業に取り組む姿勢も2割を目安に加えます。						
教科書	指定しない						
参考書	『生涯学習と自己実現』、堀繁夫、三輪健二著、放送大学教材						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報機器論						
担当教員	中村 恵信						
学期	後期 前半	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～3	単位数	1.0
授業のテーマ	図書館等で利用されている情報機器等の実際						
授業の概要	現在の図書館における、実際の情報機器等のハードウェア的な機能とその特徴及び利用方法について学び、図書館利用者へ説明ができる能力を修得する。又、専門職としての必要な情報活用能力をパワーアップしていく。						
到達目標	現在の図書館は機械化が進み、情報機器等の知識がなくては図書館業務を円滑に行うことができない。そこで、図書館の設置している各種情報機器等の機能、種類、利用等について理解し、実際の管理・運用ができるようにする。						
授業計画	第1回 図書館における情報・機器対応の沿革と現状 第2回 入退館システム・ブックディテクションシステム及び利用者カード 第3回 貸出・返却・予約・レファレンスシステム 第4回 OPAC端末及び情報検索端末 第5回 視聴覚メディアとコンピュータシステム及びプロジェクター 第6回 自動電動書架及び自動貸出返却機 第7回 コンピュータ機器の働きと保守管理 第8回 新しい情報機器と著作権及びまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んでください。 授業後学習：授業中に説明した情報機器等を図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	試験（60%）、レポート（40%）						
教科書	『図書館と情報機器・特論：情報メディアの活用12章』 志保田務・平井尊士編著、第一法規、 ISBN978-4-474-00871-7						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報サービス演習A						
担当教員	中村 恵信						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	インターネット情報資源の情報検索サービスの実際と演習						
授業の概要	情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス及び情報検索サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービスを通しての回答を行い、積極的なコラボレーション型情報サービスの演習を通して、総合的かつ、実践的な能力を養成する。						
到達目標	インターネットを通じた情報検索演習を主に行うが、新課程の科目の考え方により、情報サービス演習として統合された観点からレファレンスサービスカウンターでのコンシェルジュ（総合案内係）としての情報検索端末及び参考図書によるレファレンスサービスを行えるレファレンスライブラリアンを目指す。						
授業計画	第1回 情報サービスの設計（レファレンスサービスの体制作りを含む） 第2回 情報サービスの方法・プロセス（レファレンスインタビューとレファレンスプロセス等） 第3回 情報検索サービスの技法と実際（論理演算、トランケーション、キーワード、シソーラス、マッピング、検索評価等） 第4回 情報資源の探し方 第5回 Webページ、Webサイトの探し方 第6回 図書情報の探し方 第7回 雑誌の探し方 第8回 雑誌記事の探し方 第9回 新聞記事の探し方 第10回 言葉・事柄・統計の探し方 第11回 歴史・日時の探し方 第12回 地理・地名・地図の探し方 第13回 人物・企業・団体の探し方 第14回 法律・判例・特許の探し方 第15回 今後の情報サービス及びまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んできてください。 授業後学習：授業中にできなかった演習問題の回答を試みてください。						
授業方法	講義及びパソコン、インターネットによる演習問題の回答作成						
評価基準と評価方法	試験（50%）、授業での演習課題への取り組み及び発表（50%）						
教科書	『情報サービス演習』（現代図書館情報学シリーズ；7） 原田智子編、 樹村房、 ISBN978-4-88367-207-3						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報サービス演習A						
担当教員	中村 恵信						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	インターネット情報資源の情報検索サービスの実際と演習						
授業の概要	情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス及び情報検索サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービスを通しての回答を行い、積極的なコラボレーション型情報サービスの演習を通して、総合的かつ、実践的な能力を養成する。						
到達目標	インターネットを通じた情報検索演習を主に行うが、新課程の科目の考え方により、情報サービス演習として統合された観点からレファレンスサービスカウンターでのコンシェルジュ（総合案内係）としての情報検索端末及び参考図書によるレファレンスサービスを行えるレファレンスライブラリアンを目指す。						
授業計画	第1回 情報サービスの設計（レファレンスサービスの体制作りを含む） 第2回 情報サービスの方法・プロセス（レファレンスインタビューとレファレンスプロセス等） 第3回 情報検索サービスの技法と実際（論理演算、トランケーション、キーワード、シソーラス、マッピング、検索評価等） 第4回 情報資源の探し方 第5回 Webページ、Webサイトの探し方 第6回 図書情報の探し方 第7回 雑誌の探し方 第8回 雑誌記事の探し方 第9回 新聞記事の探し方 第10回 言葉・事柄・統計の探し方 第11回 歴史・日時の探し方 第12回 地理・地名・地図の探し方 第13回 人物・企業・団体の探し方 第14回 法律・判例・特許の探し方 第15回 今後の情報サービス及びまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んできてください。 授業後学習：授業中にできなかった演習問題の回答を試みてください。						
授業方法	講義及びパソコン、インターネットによる演習問題の回答作成						
評価基準と評価方法	試験（50%）、授業での演習課題への取り組み及び発表（50%）						
教科書	『情報サービス演習』（現代図書館情報学シリーズ；7） 原田智子編、樹村房、 ISBN978-4-88367-207-3						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報サービス演習B						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	情報サービス演習Aのあとを受け、具体的なレファレンス質問の調査、回答の過程を通じて種々の図書館情報資源を用いるための基本的かつ実践的な知識、技能を養う。また、レファレンスサービス、情報検索サービスの記録の意義や評価について学ぶ。情報発信型の情報サービスについての基礎的な実践的知識を身に付ける。						
授業の概要	レファレンス質問に対する回答の作成、情報サービスの評価方法、発信型情報サービスについての演習を行う。						
到達目標	図書館情報資源のなかで基本的かつ重要なレファレンスブックスについての知識と利用法を修得する。データベース、インターネット情報資源による調査と印刷媒体の参考図書による調査の特徴、差異を体得する。情報サービスの評価、情報発信型サービスの手法を理解し、実際にできるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習のガイダンス 参考図書の評価法</li> <li>2. 参考図書の評価演習</li> <li>3. レファレンス質問の調査 1) ことば、文字に関する問題</li> <li>4. レファレンス質問の調査 2) 人名、人物に関する問題</li> <li>5. レファレンス質問の調査 3) 歴史、日時に関する問題</li> <li>6. レファレンス質問の調査 4) 図書、雑誌の書誌的事項、所蔵に関する問題</li> <li>7. レファレンス質問の調査 5) 新聞記事に関する問題</li> <li>8. レファレンス質問の調査 6) 雑誌記事に関する問題</li> <li>9. レファレンス質問の調査 7) 法令、統計に関する問題</li> <li>10. レファレンス質問の調査 8) 探索質問としての書誌作成</li> <li>11. レファレンス質問の調査 9) 書誌作成の演習</li> <li>12. 情報サービスの記録と評価 -レファレンスコレクションの評価、情報検索サービス・レファレンスサービスの評価</li> <li>13. 発信型情報サービス</li> <li>14. パスファンダーの作成、リサーチナビ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容)	ほぼ毎回レファレンス質問の調査課題が課されるので必ず提出すること。						
授業方法	最初の2回を除きほぼ毎回課題が課せられる。その課題の調査結果を発表し、受講学生、担当教員で検討をする演習形式で進めていく。						
評価基準と評価方法	授業での課題の調査、発表等の授業への参画度(20%)と成績評価レポート(80%)によって評価する。						
教科書	原田智子編『情報サービス演習』樹村房、2012年刊 ISBN978-4-88367-207-3 (情報サービス演習Aと同じ教科書を引き続き使用します)						
参考書	課題、回答例等は適宜プリントを配布します。 長澤雅男、石黒祐子「情報源としてのレファレンスブック」新版 日本図書館協会、2004 西田文男監修「情報サービス」第3版 学芸図書、2007						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報サービス演習B						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	情報サービス演習Aのあとを受け、具体的なレファレンス質問の調査、回答の過程を通じて種々の図書館情報資源を用いるための基本的かつ実践的な知識、技能を養う。また、レファレンスサービス、情報検索サービスの記録の意義や評価について学ぶ。情報発信型の情報サービスについての基礎的な実践的知識を身に付ける。						
授業の概要	レファレンス質問に対する回答の作成、情報サービスの評価方法、発信型情報サービスについての演習を行う。						
到達目標	図書館情報資源のなかで基本的かつ重要なレファレンスブックスについての知識と利用法を修得する。データベース、インターネット情報資源による調査と印刷媒体の参考図書による調査の特徴、差異を体得する。情報サービスの評価、情報発信型サービスの手法を理解し、実際にできるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習のガイダンス 参考図書の評価法</li> <li>2. 参考図書の評価演習</li> <li>3. レファレンス質問の調査 1) ことば、文字に関する問題</li> <li>4. レファレンス質問の調査 2) 人名、人物に関する問題</li> <li>5. レファレンス質問の調査 3) 歴史、日時に関する問題</li> <li>6. レファレンス質問の調査 4) 図書、雑誌の書誌的事項、所蔵に関する問題</li> <li>7. レファレンス質問の調査 5) 新聞記事に関する問題</li> <li>8. レファレンス質問の調査 6) 雑誌記事に関する問題</li> <li>9. レファレンス質問の調査 7) 法令、統計に関する問題</li> <li>10. レファレンス質問の調査 8) 探索質問としての書誌作成</li> <li>11. レファレンス質問の調査 9) 書誌作成の演習</li> <li>12. 情報サービスの記録と評価 -レファレンスコレクションの評価、情報検索サービス・レファレンスサービスの評価</li> <li>13. 発信型情報サービス</li> <li>14. パスファウンダーの作成、リサーチナビ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	ほぼ毎回レファレンス質問の調査課題が課されるので必ず提出すること。						
授業方法	最初の2回を除きほぼ毎回課題が課せられる。その課題の調査結果を発表し、受講学生、担当教員で検討をする演習形式で進めていく。						
評価基準と評価方法	授業での課題の調査、発表等の授業への参画度(20%)と成績評価レポート(80%)によって評価する。						
教科書	原田智子編『情報サービス演習』樹村房、2012年刊 ISBN978-4-88367-207-3（情報サービス演習Aと同じ教科書を引き続き使用します）						
参考書	課題、回答例等は適宜プリントを配布します。 長澤雅男、石黒祐子「情報源としてのレファレンスブック」新版 日本図書館協会、2004 西田文男監修「情報サービス」第3版 学芸図書、2007						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報サービス論／情報サービス概説						
担当教員	中村 恵信						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館における各種情報サービスの総合的な概説						
授業の概要	情報サービスを行ううえでのレファレンスライブラリアンとして必要かつ基本的なレファレンスサービスと情報検索サービスに関わるサービス提供方法の融合化を目指し、従来の参考図書及び新しい情報源を理解し、あらゆる質問に総合的かつ、実践的に対応できる能力を育成する。又、各種新しい情報サービスの事例紹介を行い、情報サービス演習（レファレンスサービス演習及び情報検索サービス演習）の概説としての説明も行う。						
到達目標	図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書（レファレンスブック）・各種データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等（パスファインダー・機関リポジトリ等）の新しいサービス等について理解する。						
授業計画	<p>第1回 インターネット時代における情報社会と図書館の情報サービス</p> <p>第2回 図書館における情報サービスの意義と種類(1)（レファレンスサービス、情報検索サービス等）</p> <p>第3回 図書館における情報サービスの意義と種類(2)（レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス、読書相談、利用案内等）</p> <p>第4回 レファレンスサービスの理論(1)（利用者の情報行動、レファレンスサービスプロセス等）</p> <p>第5回 レファレンスサービスの理論(2)（事例の活用、組織と担当者、サービスの評価等）</p> <p>第6回 レファレンスサービスの実際と方法(1)（レファレンスサービスの体制づくり等）</p> <p>第7回 レファレンスサービスの実際と方法(2)（レファレンスサービスの実際、インタビューの方法、普及、現状と問題点等）</p> <p>第8回 情報検索サービスの理論（利用者の情報行動、情報検索サービスプロセス、事例の活用、組織と担当者、サービスの評価等）</p> <p>第9回 情報検索サービスの実際と方法（情報検索サービスの実際、インタビューの方法、普及、現状と問題点等）</p> <p>第10回 各種情報源の解説と評価（参考図書、ネットワーク情報資源等を含む）</p> <p>第11回 新しい情報源の特質と利用方法（電子ブック、電子ジャーナル、データベース、オープンソース等）</p> <p>第12回 各種情報源の組織化（二次資料の作成及び参考文献の作成、情報発信を含む）</p> <p>第13回 発信型情報サービス（パスファインダー）の意義及び実際と方法</p> <p>第14回 発信型情報サービス（機関リポジトリ・オープンソース）の意義及び実際と方法</p> <p>第15回 図書館利用教育の意義及び実際と方法（情報リテラシーの育成を含む）及びまとめと試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んできてください。</p> <p>授業後学習：授業中に説明した内容について図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（60％）、レポート（40％）						
教科書	『情報サービス：概説とレファレンスサービス演習』 第3版 志保田務・平井尊士編著 谷本達哉・中村恵信・前川和子・井上祐子著 学芸図書 ISBN978-4-7616-0396-0						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報資源組織演習A/資料組織演習A						
担当教員	槻本 正行						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2~4	単位数	1.0
授業のテーマ	資料組織概説で学習した内容を踏まえて、演習問題を通じて、主題分類法(この科目では「日本十進分類法」を中心に行う)の実際について、その技術を習得する。						
授業の概要	主題分類法の考え方とその技術を修得するとともに、日本における資料組織のための三大ツールのうち、特に『日本十進分類法 第9版(NDC9)』の構造および適用法について、演習を通じて理解を深めることを目的とする。						
到達目標	コ本十進分類法の体系を理解する。 日本十進分類法によって、基本的な分類記号が付与できる。 件名についての基礎的知識を習得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. NDC9の概略と構成 本表、補助表、相関索引</li> <li>2. 人文科学(1): 哲学・宗教 (1類)</li> <li>3. 人文科学(2): 歴史(2類)</li> <li>4. 人文科学(3): 伝記・地理 (2類)</li> <li>5. 一般補助表(1): (形式区分、地理区分)</li> <li>6. 人文科学(4): 芸術 (7類)</li> <li>7. 人文科学(4): 言語 (8類)・文学 (9類)</li> <li>8. 一般補助表(2): (言語区分、言語共通区分、文学共通区分)</li> <li>9. 社会科学(1): 社会科学 (3類)</li> <li>10. 社会科学(2)産業 (6類)</li> <li>11. 自然科学 (4類)・技術 (5類)</li> <li>12. 総記 (0類)</li> <li>13. 分類規程</li> <li>14. 日本件名標目表</li> <li>15. 件名付与演習</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容)	事前学習としては、資料組織概説で学習した内容を復習しておくこと。ほぼ、毎回、学習内容に係る演習問題の宿題が課されるので、事後学習を怠らぬで行うことが大切となる。						
授業方法	演習形式。はじめの数回を除いて、学習した内容について時間内および宿題の形で演習問題を課す。当該時間内またはその翌週に答合せと解説を行う形で演習を進める。						
評価基準と評価方法	定期試験(80%)と小テスト、演習課題、授業への取り組み(20%)により総合的に評価する。						
教科書	志保田務、高鷲忠美「情報資源組織法 -資料組織法-改」 第一法規, 2012年刊 なお、この教科書は後期の情報資源組織演習B/資料組織演習Bにも引き続き使用できます。						
参考書							

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報資源組織演習A/資料組織演習A						
担当教員	槻本 正行						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2~4	単位数	1.0
授業のテーマ	資料組織概説で学習した内容を踏まえて、演習問題を通じて、主題分類法(この科目では「日本十進分類法」を中心に行う)の実際について、その技術を習得する。						
授業の概要	主題分類法の考え方とその技術を修得するとともに、日本における資料組織のための三大ツールのうち、特に『日本十進分類法 第9版(NDC9)』の構造および適用法について、演習を通じて理解を深めることを目的とする。						
到達目標	コ本十進分類法の体系を理解する。 日本十進分類法によって、基本的な分類記号が付与できる。 件名付与の基礎的知識を習得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. NDC9の概略と構成 本表、補助表、相関索引</li> <li>2. 人文科学(1): 哲学・宗教 (1類)</li> <li>3. 人文科学(2): 歴史(2類)</li> <li>4. 人文科学(3): 伝記・地理 (2類)</li> <li>5. 一般補助表(1): (形式区分、地理区分)</li> <li>6. 人文科学(4): 芸術 (7類)</li> <li>7. 人文科学(4): 言語 (8類)・文学 (9類)</li> <li>8. 一般補助表(2): (言語区分、言語共通区分、文学共通区分)</li> <li>9. 社会科学(1): 社会科学 (3類)</li> <li>10. 社会科学(2)産業 (6類)</li> <li>11. 自然科学 (4類)・技術 (5類)</li> <li>12. 総記 (0類)</li> <li>13. 分類規程</li> <li>14. 日本件名標目表</li> <li>15. 件名付与演習</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容)	事前学習としては、資料組織概説で学習した内容を復習しておくこと。ほぼ、毎回、学習内容に係る演習問題の宿題が課されるので、事後学習を怠らぬことが大切となる。						
授業方法	演習形式。はじめの数回を除いて、学習した内容について時間内および宿題の形で演習問題を課す。当該時間内またはその翌週に答合せと解説を行う形で演習を進める。						
評価基準と評価方法	定期試験(80%)と小テスト、演習課題、授業への取り組み(20%)により総合的に評価する。						
教科書	志保田務、高鷲忠美「情報資源組織法 -資料組織法-改」 第一法規, 2012年刊 なお、この教科書は後期の情報資源組織演習B/資料組織演習Bにも引き続き使用できます。						
参考書							

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報資源組織演習B／資料組織演習B						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～4	単位数	1.0
授業のテーマ	資料組織概説で学習した内容を踏まえて、演習問題を通じて、主題目録法(この科目では「日本目録規則 1987年版改訂版」を中心に行う)の実際について、その技術を習得する。						
授業の概要	日本における資料組織のための三大ツールのうち、特に『日本目録規則 1987年版改訂版(NCR1987rev.)』の構造および適用法について、演習を通じて理解することを目的とする。 そのため、資料組織概説で学習したことの復習から始めて、『日本目録規則 1987年版改訂版(NCR1987rev.)』に基づき記述エリアごとに詳説しつつ、カード目録の作成演習を行う。後半は、国立情報学研究所のNAVSIS-CATの目録データ構造を学び、『目録情報の基準』等に基づきコンピュータ目録の作成演習を行う。						
到達目標	『日本目録規則 1987年版改訂版(NCR1987rev.)』で用いられる主要な用語が理解できる。 同目録規則に準拠した目録データを作成できるようになる。 国立情報学研究所のNAVSIS-CATの目録データ構造を理解できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『日本目録規則 1987年版改訂版』の概略と構成</li> <li>2. 書誌階層</li> <li>3. 記述に関する総則、記述目録法とは、基本的な項目と標目指示など</li> <li>4. 目録記述の精粗</li> <li>5. タイトルと責任表示の記述演習</li> <li>6. 版、出版の記述演習</li> <li>7. 形態、ISBNの記述演習</li> <li>8. 注記の記述演習</li> <li>9. 標準番号、入手条件の記述</li> <li>10. 継続資料の目録</li> <li>11. JAPAN MARCのデータ構造 NACSIS CATのデータ構造</li> <li>12. 目録演習(1) 和図書単行レベル</li> <li>13. 目録演習(2) 和図書集合レベル</li> <li>14. 書誌ユーティリティ</li> <li>15. これからの目録、試験</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容)	事前学習としては、資料組織概説で学習した内容を復習しておくこと。ほぼ、毎回、学習内容に係る演習問題が課されるので、事後学習を怠らざること大切となる。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	定期試験(90%)と授業時の演習課題への取り組み態度(10%)により総合的に評価する。						
教科書	志保田務、高鷲忠夫「情報資源組織法 -資料組織法・改」 第一法規 2012年刊						
参考書							

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報資源組織演習B／資料組織演習B						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2～4	単位数	1.0
授業のテーマ	資料組織概説で学習した内容を踏まえて、演習問題を通じて、主題目録法(この科目では「日本目録規則 1987年版改訂版」を中心に行う)の実際について、その技術を習得する。						
授業の概要	日本における資料組織のための三大ツールのうち、特に『日本目録規則 1987年版改訂版(NCR1987rev.)』の構造および適用法について、演習を通じて理解することを目的とする。 そのため、資料組織概説で学習したことの復習から始めて、『日本目録規則 1987年版改訂版(NCR1987rev.)』に基づき記述エリアごとに詳説しつつ、カード目録の作成演習を行う。後半は、国立情報学研究所のNAVSIS-CATの目録データ構造を学び、『目録情報の基準』等に基づきコンピュータ目録の作成演習を行う。						
到達目標	『日本目録規則 1987年版改訂版(NCR1987rev.)』で用いられる主要な用語が理解できる。 同目録規則に準拠した目録データを作成できるようになる。 国立情報学研究所のNAVSIS-CATの目録データ構造を理解できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『日本目録規則 1987年版改訂版』の概略と構成</li> <li>2. 書誌階層</li> <li>3. 記述に関する総則、記述目録法とは、基本的な項目と標目指示など</li> <li>4. 目録記述の精粗</li> <li>5. タイトルと責任表示の記述演習</li> <li>6. 版、出版の記述演習</li> <li>7. 形態、ISBNの記述演習</li> <li>8. 注記の記述演習</li> <li>9. 標準番号、入手条件の記述</li> <li>10. 継続資料の目録</li> <li>11. JAPAN MARCのデータ構造 NACSIS CATのデータ構造</li> <li>12. 目録演習(2) 和図書単行レベル</li> <li>13. 目録演習(2) 和図書集合レベル</li> <li>14. 書誌ユーティリティ</li> <li>15. これからの目録、試験</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容)	事前学習としては、資料組織概説で学習した内容を復習しておくこと。ほぼ、毎回、学習内容に係る演習問題が課されるので、事後学習を怠らざることを行うことが大切となる。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	定期試験(90%)と授業時の演習課題への取り組み態度(10%)により総合的に評価する。						
教科書	志保田務、高鷲忠夫「情報資源組織法 -資料組織法・改」 第一法規 2012年刊						
参考書							

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報資源組織論／資料組織概説						
担当教員	坂口 まゆみ						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	よい書誌データとは						
授業の概要	<p>インターネットがあれば、この世のことが網羅されていて、検索すれば、瞬時に、タダで情報が入ってくる時代になぜ、そんなものが必要かという疑問を持って下さい。そこでは、ゴミも貴重な知識も、果てはゴミのようなサイトまでが、無秩序に現れ、われわれを襲ってくるだけなのです。だから、今こそ「データの品格！」が求められているのです。図書館における情報資源組織化とは、まさに品格をもって行うサービスです。また、組織というからには、バラバラに見えるものも一つにまとめて、つながりをもたせなくてはなりません。利用者に、図書館にあるすべての情報資源、さらというと、自分が今いる、図書館だけでなく、すべての図書館の情報資源も簡単に検索でき、利用できる状態を提供しなくてはなりません。だからこそ図書館に共通のルールが必要となってきます。この講義では、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法といったルール（お作法）を学びつつも、利用者のための情報とは何かを考えていきます。</p>						
到達目標	<p>司書課程の中で、むずかしいといわれる科目の一つです。本を読むのが大好きで、図書館の事なら何でも知っていると思っている人にとっては、ちょっとカルチャーショックを受けるかもしれませんが、でも、司書課程ならではの面白さや驚きもあります。まずは、科目名を見ても、講義内容がイメージできないでしょう。以前は「分類と目録」と呼ばれる科目で整理業務としてとらえられていました。1990年代半ばには、情報サービスの一つとして意識するために「資料組織概説」という科目となりました。そして、本や雑誌の紙が中心であったメディアも情報環境が多様化し、今や「資料」は「情報資源」として扱われるようになりました。</p> <p>この講義を受けることによって、少し以前の整理技術についてから出発し、分類・目録の基礎を身につけ、現代のような書誌コントロール、書誌情報の流通、多様化するメディアをデータとして一つにまとめあげるといふ組織化について理解し、次の演習へ進めるようになります。</p>						
授業計画	<p>第1回 情報資源をどう扱うか</p> <p>第2回 I分類 ①主題分析 ②NDCの基礎</p> <p>第3回 I分類 ③件名とBSH ④その他の分類法、件名法</p> <p>第4回 II目録 ①目録の種類 冊子目録からOPACまで</p> <p>第5回 II目録 ②NCR ③書誌階層の考え方 ④AACRとRDA</p> <p>第6回 I分類・II目録 まとめ と テスト</p> <p>第7回 III書誌コントロール ①国内レベル ②ウェブ時代と全国書誌</p> <p>第8回 III書誌コントロール ③国際レベル ④IFLA等の役割</p> <p>第9回 III書誌コントロール まとめ と テスト</p> <p>第10回 IV書誌情報の流通 ①共同目録作業と書誌ユーティリティ</p> <p>第11回 IV書誌情報の流通 ②NACSIS-CAT等の利用</p> <p>第12回 IV書誌情報の流通 ③オリジナル入力とコピーカタロギング</p> <p>第13回 Vウェブ・ページの組織化 ①メタデータとダブリン・コア</p> <p>第14回 Vウェブ・ページの組織化 ②セマンティック・ウェブ他</p> <p>第15回 IV書誌情報の流通・Vウェブ・ページの組織化 まとめとテスト</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	試験は、知識の整理を行うため、各テーマの要点から、均一に出題されます。したがって、試験対策を毎回意識して勉強してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	<p>テスト 30点×3回=90点</p> <p>ミニレポート 10点×1回=10点</p> <p>合計100点で、60点以上を合格とします</p>						
教科書	使用しない						

参考書	
-----	--

科目区分	司書課程科目						
科目名	児童サービス論						
担当教員	中西 美季						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館児童サービス研究						
授業の概要	公共図書館における児童サービスの現状と課題を概説する。少なからぬ絵本や児童文学などの実物を見ながら、その特性をとらえ、それらの資料を子どもに橋渡しするための技術を、デモンストレーションをまじえて解説する。その上で、図書館にできる乳幼児からヤングアダルト、保護者、地域へのサービスを考える。						
到達目標	子どもを知り、資料を知り、それらを橋渡しするためのノウハウを会得する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション・デモンストレーション・児童図書館とは 第2回 児童図書館の歴史と現状・発達と学習における読書の役割 第3回 子どもと子どもの本を知る1 絵本1 読み聞かせ 第4回 子どもと子どもの本を知る2 絵本2 乳幼児サービス 第5回 子どもと子どもの本を知る3 昔話1 第6回 子どもと子どもの本を知る4 昔話2 ストーリーテリング 第7回 子どもと子どもの本を知る5 児童文学 第8回 子どもと子どもの本を知る6 各種資料 第9回 書評、照会文、カウンターワーク、フロアワーク 第10回 ブックトーク、ブックリスト、ディスプレイ、行事 第11回 学習支援としての児童サービス、学校、学校図書館の活動 第12回 ヤングアダルトサービス 第13回 運営、サービス計画と評価、学校や地域との連携・協力 第14回 建築、施設、設備、読書活動推進 第15回 図書館の自由、トピックス、総括						
授業外における学習（準備学習の内容）	近くの図書館でのサービスを観察、体験し、子どもの本に触れておくとう理解が深まります。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	数回のレポート（90%）、平常点（10%）						
教科書							
参考書	『児童図書館サービス1』日本図書館協会児童青少年委員会編 日本図書館協会 ISBN:4-8204-1106-2						

科目区分	司書課程科目						
科目名	児童サービス論						
担当教員	中西 美季						
学期	後期 前半	曜日・時限	水曜5	配当学年	1~3	単位数	1.0
授業のテーマ	図書館児童サービス研究						
授業の概要	公共図書館における児童サービスの現状と課題を概説する。少なからぬ絵本や児童文学などの実物を見ながら、その特性をとらえ、それらの資料を子どもに橋渡しするための技術を、デモンストレーションをまじえて解説する。その上で、図書館にできる乳幼児からヤングアダルト、保護者、地域へのサービスを考える。						
到達目標	子どもを知り、資料を知り、それらを橋渡しするためのノウハウを会得する。						
授業計画	第1回 児童サービスの意義と歴史 第2回 子どもと子どもの本を知る1 絵本、読み聞かせ、乳幼児サービス 第3回 子どもと子どもの本を知る2 昔話、ストーリーテリング 第4回 子どもと子どもの本を知る3 児童文学 第5回 子どもと子どもの本を知る4 各種資料 第6回 児童サービスを考える1 直接サービス、書評、紹介文 第7回 児童サービスを考える2 ブックトーク、ブックリスト、行事、設備など 第8回 児童サービスを考える3 ヤングアダルト・サービス、読書活動推進など						
授業外における学習（準備学習の内容）	近くの図書館でのサービスを観察、体験し、子どもの本に触れておくと理解が深まります。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	数回のレポート（90%）、平常点（10%）						
教科書							
参考書	『児童図書館サービス1』日本図書館協会児童青少年委員会編 日本図書館協会 ISBN:4-8204-1106-2						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書・図書館史／図書及び図書館史						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期 前半	曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	日本の図書の歴史、図書館の歴史を中心に学ぶ。						
授業の概要	図書館は古代から現代まで3000年以上の歴史をもつが、その時代、おかれた社会から影響を受けながらも人類の知を継承する存在として、社会の発展と学術・文化の発達に寄与してきた。この授業では、日本における記録メディアの変遷と日本の図書館史に焦点をあてて解説する。						
到達目標	各種の記録メディアの発生についての知識を習得する。 図書の形態の変遷についての知識を習得する。 日本における図書館(文庫等の図書館類似施設)の歴史的な展開を代表的な例と全体的な流れのなかで把握する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記録メディアの歴史</li> <li>2. 日本における図書の歴史 -江戸末期まで</li> <li>3. 日本の図書館史 中世から近世の図書館(図書館類似施設)</li> <li>4. 日本の図書館史 幕末から明治へ</li> <li>5. 日本の図書館史 明治、大正期の図書館</li> <li>6. 戦前期の日本の公共図書館</li> <li>7. 戦後日本の公共図書館史</li> <li>8. 諸外国の図書館史</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業の進度は速い。初回を除いて教科書を事前学習として読んだ上で出席すること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題レポート(80%)と授業中に実施する小テスト(20%)						
教科書	小黒浩司編著『図書及び図書館史』(JLA図書館情報学テキストシリーズ II期-12) 日本図書館協会 2009年刊						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館概論						
担当教員	槻本 正行						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ふだん利用している図書館(公立図書館や大学図書館など)は“どのようにして生まれたのか”をスタート地点として、図書館とはどのようなものか、図書館の機能や現代社会における意義、役割について学ぶ。						
授業の概要	図書館というシステムをその構成要素、機能、社会的意義、価値等から検討することを通じて図書館の基礎的なことについて解説する。その上で、公立図書館の成立・展開といった歴史的側面と館種別図書館の概要と現状といった水平的側面から図書館について解説する。そのようなことを踏まえて、図書館で働く図書館職員、広い意味での図書館ネットワークについて説明するとともに、これからの図書館の変わるべき点、変わらない点を考える手がかりとなるように講義を行う。 については、講義内容に関連して受講生の図書館体験や意見などの発言を求める。						
到達目標	1 図書館とはどのようなものであり、どのような社会的役割を果たしているのかを理解する。 2 現代の図書館がどのようにして、生まれ、展開、発展してきたかを理解する。 3 館種別に(公立図書館、大学図書館、、、など)図書館をみていくことで、その利用者、ニーズ、動向を大まかに理解する。						
授業計画	1 オリエンテーション ー図書館とは何か、司書課程で学ぶこと、図書館の現状と動向 2 図書館の構成要素、図書館の機能 3 図書館の業務モデル 4 図書館の社会的意義 5 記録、文化の伝承と図書館 ー図書館の始原と世界の図書館 6 公立図書館の成立と展開 ーイギリス、アメリカに見る 7 わが国における公立図書館の成立と発展 8 館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(1) 公立図書館 9 館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(2) 国立国会図書館 10 館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(3) 大学図書館 11 館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(4) 学校図書館 12 館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(5) 専門図書館 13 図書館職員ーその資質、資格制度、役割 14 図書館関連団体、図書館学術団体と図書館の類縁機関 15 総まとめー図書館を取り巻く課題と展望 と試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	司書課程で学習する内容の基礎となる科目ため、事前学習より、事後学習(復習)を心がけること。						
授業方法	講義形式、ただし随時みなさんの図書館についての印象や意見を口頭なり、ミニレポートとして求めます。						
評価基準と評価方法	授業への参画態度とミニレポート(10点)、定期試験(90点)によって評価します。						
教科書	二村健著『図書館の基礎と展望』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 1) 学文社、2011年						
参考書	塩見昇『図書館概論』(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ-1) 日本図書館協会、2012年 その他は授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館基礎特論						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期 後半	曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	司書課程の基礎的科目で学習する内容のなかから、基本的理念に関わるテーマを取り上げて論じる。図書館の自由をめぐる問題を扱う。						
授業の概要	「図書館の自由に関する宣言」と図書館の自由に関わる具体的な事案について、図書館の資料収集の自由、資料提供の自由、利用者のプライバシー保護、検閲の問題について検討する。						
到達目標	なぜ「図書館の自由」が自由が大切なのか、「図書館の自由宣言」で述べられている項目に関して、過去の具体的な事案を検討することを通じて、実際に事態に直面した際に適切な判断が下せる理解力を養うことを目標とする。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知る権利、知的自由と図書館</li> <li>2. 「図書館の自由に関する宣言」その採択、内容</li> <li>3. 図書館の資料収集に関する事案</li> <li>4. 図書館の資料提供に関する事案 (1)</li> <li>5. 図書館の資料提供に関する事案 (2)</li> <li>6. 利用者の秘密を守ることにに関する事案</li> <li>7. 図書館はすべての検閲に反対することにに関する事案 まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	「図書館概論」で学習した内容を自身で復習、確認しておくこと。						
授業方法	図書館の自由についての過去の事案を採り上げて、図書館の対応、報道、判決文、日本図書館協会図書館の自由委員会の声明等の資料を読み解きながら、経緯の理解、問題点の把握ができる形で授業を行う。						
評価基準と評価方法	授業での発言、発表等の授業への参画度(20%)と課題レポート(80%)にて評価する。						
教科書	特に使用しない。毎回、プリント教材を配布する。						
参考書	適宜、授業の中で指示します。						

科目区分	司書課程科目							
科目名	図書館経営論							
担当教員	坂口 まゆみ							
学期	前期	後半	曜日・時限	木曜4	配当学年	2~4	単位数	1.0
授業のテーマ	図書館の「大切なもの」に気づく							
授業の概要	小奇麗な建物、自動ドアを入ると、お揃いのエプロンでニコリと迎え、貸出手続きは、ピッとバーコードをスキャンしてくれる図書館。延長開館、祝日開館もすずみ、「まだ開いている、今日も開いている」図書館。図書館もコンビニみたいに便利だし、愛想もよくなったわと満足している人々。ちょっと待った！！「大切なものは目に見えない」と、《星の王子さま》にあります。この講義では、本当の図書館サービスとは何か、そのためには、どのような経営が求められるのかを考え、「大切なもの」を見てみましょう。							
到達目標	「利用者」として図書館を見る目を養う一方で、図書館の置かれている問題に気づき、サービス提供者である図書館側の課題は何か、分かるようになることです。							
授業計画	第1回 ①図書館は、元気ですか？ ②ヒト、モノ、カネ、そして情報 第2回 ①経営の基本1 企業と法務 ②新古書店、マンガ喫茶、インターネット等が図書館にどんな影響を与えるか 第3回 ①経営の基本2 経営戦略 ②魅力ある図書館、望まれる図書館とは 第4回 ①経営の基本3 マネジメント ②労働法の基礎知識 第5回 ①図書館の評価について考える ②図書館に関するニュースなどの調べ方 ③図書館経営に関するニュースに目を向けよう 1 第6回 レポートと発表準備 第7回 レポート口頭発表 1 第8回 レポート口頭発表 2							
授業外における学習（準備学習の内容）	前半は、配付したプリントの空欄を、きちんと埋めておいて下さい。経営の基本は、ITパスポートの出題にも合わせています。ITパスポート試験を受けようと考えている人は、過去問などにも、挑戦してみてください。後半は、図書館に関するニュース、雑誌記事などをチェックして、レポートの題材に役立てます。							
授業方法	講義							
評価基準と評価方法	レポート1：30% 講義内容の要約 レポート2：70% 現在の図書館がかかえている問題や、未来の図書館像に関して、各自テーマを設定する							
教科書	使用しない（新聞記事、雑誌論文、統計資料などを順次紹介）							
参考書	「図書館雑誌（日本図書館協会、月刊）」、「みんなの図書館（図書館問題研究会、月刊）」 「ず・ぼん」（ポット出版、年1回）」の雑誌を、大学図書館や公共図書館で一度見てみてください。それだけでも、「見える」ものが出てきますよ。							

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館サービス概論／図書館サービス論						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館サービスは、図書館の機能を具体化し、実践する活動であり、利用者志向で行われなければならない。このような図書館サービスについて、その意義、方法、特徴について学ぶとともにその具体的なサービスについて理解する。						
授業の概要	図書館サービスの理念と意義を概説し、資料提供サービス、情報提供サービス、利用者別サービスに大別してその意義や技法について解説する。あわせて、できるだけ各種サービスについて具体的な実践例や教材の動画または写真を見ることで多様な図書館サービスに触れることができるようにする。						
到達目標	図書館が提供している様々なサービスについて、その名称と具体的な活動内容を把握する。また、そのようなサービスがどのような考え方に基づいて実施され、どのような準備を必要とし、実践されるのか、を理解する。そして、図書館サービスというものは図書館員を介して提供されるものであるということ意識する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 図書館サービスの意義と理念</li> <li>2. 図書館サービスの種類と方法</li> <li>3. 資料提供サービス (1) 閲覧、貸出、予約・リクエスト、フロアワーク</li> <li>4. 資料提供サービス (2) 読書案内、複写サービス、AV資料の提供サービス</li> <li>5. 情報提供サービス (1) レファレンスサービス、カレントアウェアネスサービス</li> <li>6. 情報提供サービス (2) 情報検索サービス、課題解決型支援サービス</li> <li>7. 情報提供サービス (3) 集会活動、講演会・セミナー</li> <li>6. 利用対象別サービス (1) 児童サービス、ヤングアダルトサービス、成人へのサービス</li> <li>9. 利用対象別サービス (2) 高齢者サービス、多文化サービス</li> <li>10. 利用対象別サービス (3) 利用に障害を持つ人々へのサービス</li> <li>11. 図書館サービスと著作権</li> <li>12. 図書館サービスの協力と連携</li> <li>13. 図書館広報とコミュニケーション</li> <li>14. 図書館サービスの変遷 -日本の戦後の公立図書館サービスをめぐって</li> <li>15. これからの図書館サービス展開にむけて</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	事前学習として、教科書を下読みしておくこと。 授業で学ぶだけでなく、居住地や近郊の自治体の公共図書館を実際に見に行くことを心がけてほしい。						
授業方法	講義形式。適宜、具体的なサービス事例については、DVDやビデオ、写真などを見ることで進める。						
評価基準と評価方法	授業時間内に行う数回の小テスト(30%)と試験(70%)にて評価します。						
教科書	宮部頼子編『図書館サービス概論』 樹村房 2012年刊						
参考書	小田光宏編著『図書館サービス論』日本図書館協会 2010年2月刊 その他、サービス各論についての参考書は授業時に適宜、指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館サービス特論						
担当教員	中村 恵信						
学期	後期 前半	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	図書館サービスの実際の理解						
授業の概要	図書館サービス概論の内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館サービスに関する領域の課題を選択し、講義や演習を行う。「図書館サービス概論」を実践的に活用するための演習を組み込み、「図書館サービス概論」で概説的に扱った図書館サービスについて、「図書館サービス特論」では焦点化した授業展開により、図書館サービスについての理解を深める。						
到達目標	図書館サービス概論の実際を演習形式で理解し、資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者、高齢者、多文化サービスを実際に行えるようにする。						
授業計画	第1回 図書館サービスの実際について 第2回 資料提供サービスの実際（利用案内・貸出・図書館間相互貸借（ILL）・予約サービス・リクエストサービス・読書案内） 第3回 資料提供サービスの連携・協力の実際（図書館ネットワーク・横断検索・連携協定・団体貸出） 第4回 情報提供の実際（サイン計画・広報・展示・お話し会・集会・講座・セミナー） 第5回 課題解決支援サービスの実際 第6回 障害者サービス・高齢者サービス・多文化サービス 第7回 オリエンテーションと図書館ツアーの企画 第8回 利用者に対する接遇・コミュニケーション及びまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んでください。 授業後学習：授業中に説明した内容等を図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	試験（60%）、レポート（40%）						
教科書	『図書館サービス概論』（現代図書館情報学シリーズ；4）宮部頼子編 樹村房 ISBN978-4-88367-204-2						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館施設論						
担当教員	中村 恵信						
学期	後期 後半	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	図書館施設の実際と理解						
授業の概要	利用者のための地域計画としての図書館ネットワーク案及び建築計画としての図書館設置計画案を作成し、ベンダーのカタログを利用し実際の館内のサイン計画及び図書館家具等を考えて、カウンター、閲覧席、閲覧椅子、AVルーム等の計画が行えるようにする。						
到達目標	必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館活動・サービスが展開される場としての図書館施設について、地域計画、建築計画、その構成要素等を理解する。						
授業計画	第1回 場としての図書館とは 第2回 図書館システムと地域計画・建築計画・規模計画 第3回 図書館建築の構成要素 第4回 図書館の内装計画・環境計画 第5回 複合・併設館について 第6回 図書館建築の実例・図面と図学の基本 第7回 バーチャル図書館の設計と表現・評価 第8回 展望及びまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業中計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んでください。 授業後学習：授業中に説明した内容等を図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	試験（60%）、レポート（40%）						
教科書	『図書館施設特論』（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望；9）福本徹著 学文社 ISBN978-4-7620-2199-2						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館情報技術論						
担当教員	中村 恵信						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館における利用者サービスを行うため情報技術の実際						
授業の概要	図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、ネットワーク及びコンピュータ等の基礎、オープンシステム、図書館業務システム、電子ブック、電子ジャーナル、データベース、リンクリゾルバ、検索エンジン、ホームページによる情報発信等について解説し、必要に応じて演習を行う。						
到達目標	インターネットによる情報環境の急激な変更に対応できるように、情報資源においては電子ブック、電子ジャーナルを理解し、図書館サービスにおいてはネットワークを通じた図書館システムを構築し、広報において情報発信まで行い、電子図書館の管理・運営をできるようにする。						
授業計画	第1回 コンピュータとネットワークの基礎 第2回 館内LANの構成、サブネットワーク、プロトコル 第3回 コンピュータシステムの管理 第4回 データベースの仕組み 第5回 図書館業務システムの仕組み 第6回 館内ネットワークの仕様、仕様書 第7回 図書館における情報技術活用の現状 第8回 電子資料の管理技術 第9回 電子図書館とデジタルアーカイブ 第10回 最新の情報技術と図書館 第11回 情報技術と社会 第12回 インターネットと図書館 第13回 サーチエンジンの仕組み 第14回 Web2.0とLibrary2.0 第15回 展望及びまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画や授業中に配布するプリントの該当する箇所を読んでください。 授業後学習：授業中に説明した情報技術を図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	試験（60%）、レポート（40%）						
教科書	『図書館情報技術論』（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 2）斎藤ひとみ・二村 健編著、学文社、ISBN978-4-7620-2192-3						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館情報資源概論／図書館資料論						
担当教員	槻本 正行						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館を構成する要素のひとつとしての図書館情報資源(図書館資料)について、その類型ごとに基礎的知識を習得する。また、図書館のコレクションの形成、管理、評価について、基本的な考え方や手法の基礎的知識を習得する。						
授業の概要	図書館情報資源(図書館資料)について、その類型ごとに現物資料や副教材(プリント配布)により、その特性、歴史、流通について概説する。また、図書館のコレクションの形成、管理について、選択、収集、保存についての基本的な考え方、具体的なツール、手法について説明する。						
到達目標	図書館情報資源(図書館資料)について、その類型ごとの名称、定義、特徴を理解する。 図書館情報資源(図書館資料)がどのような流通のしくみを持っているかを他の商品との違いと比較して説明できるようにする。 図書館における図書館情報資源(図書館資料)の収集、受入、保存がどのように行われているのかを理解する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業のガイダンス、図書館情報資源とは</li> <li>2. 図書館情報資源の類型 ―パッケージ型情報資源、ネットワーク情報資源をめぐって</li> <li>3. 図書 ―形態、版型、造本</li> <li>4. 雑誌、新聞</li> <li>5. 小冊子、地図、政府刊行物、灰色文献</li> <li>6. 録音資料、映像資料</li> <li>7. 電子資料、ネットワーク情報資源</li> <li>8. 一次資料と二次資料</li> <li>9. 出版流通のしくみ</li> <li>10. コレクションの形成(1) 資料の収集・選択 選択論 選書ツール</li> <li>11. コレクションの形成(2) 蔵書の評価、蔵書の更新</li> <li>12. 人文・社会科学分野の情報資源とその特徴</li> <li>13. 自然科学分野の情報資源とその特徴</li> <li>14. 資料の受入、登録、配列</li> <li>15. 資料の管理、蔵書点検、除籍</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容)	特に事前学習は必要としない。事後学習をしっかりと行うことが望まれる。						
授業方法	講義形式で進める。前半の図書館情報資源(図書館資料)についての話題では、現物を提示または回覧するとともに簡単な作業も行う。						
評価基準と評価方法	試験によって評価します。						
教科書	伊藤民雄著『図書館情報資源概論』(ライブラリー図書館情報学 8) 学文社 2012年刊						
参考書	馬場俊明『図書館情報資源概論』(JLA図書館情報学テキストシリーズ Ⅲ期 7) 日本図書館協会 2012年刊 宮沢厚雄『図書館情報資源概論 改定版』理想社 2012年刊						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館情報資源特論／専門資料論						
担当教員	坂口 まゆみ						
学期	前期 前半	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～4	単位数	1.0
授業のテーマ	より高度な情報提供を目指す						
授業の概要	図書館の利用者が求めているものを提供するためには、次の二つの要素が必要となります。縦軸として、まずはどんな内容（分野）の事を求められているのかを、そして横軸として、どのメディアを用いるのが適切であるかの判断が求められます。縦軸にあたる部分としては、人文科学、社会科学、自然科学の各分野の学問的特色と情報資源について学びます。また、横軸としては、従来からある紙媒体および視聴覚資料の類、そして電子的な資源として電子辞書からデータベース、電子出版・電子ジャーナルなどの現状を確認していきます。仕上げとしてミニ演習を通じて、横軸と縦軸の交点を意識し、利用者にとってもっともよい回答とは何かをさぐっていきます。						
到達目標	講義では、すでに習ったことの整理を兼ねつつ、この上記2つの軸を用いて、学術情報を求める利用者に対応できる基礎力を養います。そして利用者のための情報資源提供を通じて、自分自身の情報力も高めることを目標にします。						
授業計画	第1回 「情報資源」と「図書館」・あらためて図書館とは何か？ 第2回 人文科学分野の情報・資料――縦軸 第3回 社会科学分野の情報・資料――縦軸 第4回 自然科学分野の情報・資料――縦軸 第5回 各メディアの長所・短所を知る――横軸 第6回 最新の電子情報資源――横軸 第7回 ミニ演習 ①苦手分野への対応方法 ②利用者からの質問内容を分析する ③今の情報環境をチェックする ④利用者への回答を検討する 第8回 まとめ/期末試験/解答と解説						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習よりも復習を中心に。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	毎回の提出物 50点 期末試験 50点						
教科書	使用しない						
参考書							